



KAGAWA GALAXY

## 「吉田源治郎の世界」を訪ねる（序）

吉田源治郎は、賀川豊彦と共に歩んだ協働者の特筆すべき人物の一人である。

この『肉眼で見える星の研究』（警醒社書店、大正11年）が源治郎の著作であり、賀川がこれの出版を待ち望み、宮沢賢治がこれを読んで作品に活かしていたことなど、どれだけの人がいま、知っているであろうか。

正直なところ、吉田源治郎といえば、賀川の重要な講演を筆記して『イエスの宗教とその真理』や『イエスの自然の黙示』など多くの著作を仕上げた人物として、また大阪四貫島セツルメントや西宮一麦教会・甲子園二葉教会の創設者として知っていた程度であった。これまで「吉田源治郎の人と生涯」を語れるような基礎知識は全く持ち合わせていなかった。

ところが不思議なご縁で、本年（2010年）4月、吉田源治郎のご子息・吉田撰氏と一麦保育園顧問・梅村貞造氏のご好意で、「吉田源治郎の世界」に魅せられる事になったのである。

以下本文で、その経緯については書き進めていくが、吉田撰氏が長年にわたり、ご両

親「吉田源治郎・幸」夫妻に関する、数多くの著作や資料を収集保存され、一部はご自身で執筆して来られたが、このたびほぼ全ての「お宝」を、当方でお預かりして、ゆっくり閲読を許されることになったのである。

早速「お宝」を読み進めながら、「KAGAWA GALAXY 吉田源治郎の世界を訪ねる」という題を付け、5月1日を第1回として「資料紹介」の形のものを書き始めて見た。

そして今年の「賀川献身100年記念」の本サイトで「賀川豊彦のお宝発見」（武内勝関係資料）を手助けしてアップ戴いた伴 武澄氏より、今回も引き続いてアップしてはどうかと、ご親切なご提案を戴いた。当方にとってこの上ないお申し出で、伴氏のご好意に甘えさせて貰う事にした。

粗雑な草稿の上に、資料をスキャンする仕方さえ不慣れな、手のかかるものをアップして戴くには気が引けるが、この度もまた天から降ってきたこの楽しい作業を、一步一步進めて見たいと思う。勘違いや誤字など多いと思われるが、全てを書き終えた後、改めて推敲を施す予定なので、お手数ながらメール便（[torigai@ruby.plala.or.jp](mailto:torigai@ruby.plala.or.jp)）で、ご指摘を宜しくお願い申し上げ、本稿の「序」に代えさせて頂く。

（2010年5月22日記す。鳥飼慶陽）